

中村設計新聞

第三十七号

七月二〇日(土)晴れ

今月の土曜研修は、平成の京町家モデル住宅
展示場『KYOMO(きょうも)』を見学しま
した。

○はじめに

今月の土曜研修は、平成の京町家モデル住宅展示場『KYOMO(きょうも)』の見学を通して、京都市が促進している「平成の京町家」について学びました。資料を頂き説明を受けた後に、各展示場を見学しました。

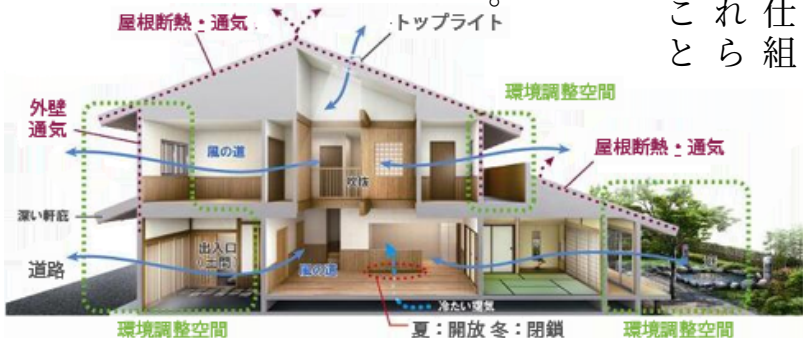
6月には京都市内の『吉田家』と『紫織庵』を見学し、「伝統的な京町家」を学び、今回の「平成の京町家」との比較検討や意見交換を所員間で行いました。

○平成の京町家とは？

京都市は「環境モデル都市・京都」の実現に向けて、平成二十年に市民会議を設置しました。その中で、具体的な検討テーマのひとつとして「平成の京町家」を掲げ、京都の木造文化や生活文化を象徴する京町家の伝統と知恵を受け継ぎながら、新たな居住文化の創出と供給促進に努めています。

伝統的な京町家の知恵として、長寿命の躯体や地産地消の木材の使用、統一感のある外観デザイン、自然環境を取り込んだ室内環境があります。また、新しい技術やデザインとして、断熱性と気密性の確保やユニバーサルデザイン、自然エネルギー等の使用、リフォームや維持管理の仕組みがあります。これらの要素が融合することにより、美しい京都のまちと、住みやすい暮らしづくりにつながります。

生活文化の継承と発展、景観の保全と再生、地球温暖化対策の各側面から、「平成の京町家」と既存の京町家とが共存したまちづくりが求められます。



○見学レポート

〈京町家 今昔〉

京町家の良さを今さら詳細に説明するつもりはありません。多くの方々が、様々な角度で研究され、評価されているのですから。

公的な規制や、気候・風土などの条件下で、建築学というものが存在していなかった時代に、これほど優れたものを、どうやって創り上げたのでしょうか。

構造的に見ても伝統建築構法としてひとくくりにできない独自の構造と工法。光と風、そして陰と陽を建築に取り入れ合理的に対処されています。

一切の無駄はなく、美への追及も怠りなく配慮されています。

それほど優れたものをわずか数十年で捨てていく我々は一体何なのでしょう。うか。

自然も風土も環境も無視し、人工的で画一的な空間に生きることが望む住み手。古きものは劣り、新しきものが優れていると洗脳されている作り手。

本物の平成の京町家を、作り上げる事ができれば良いのですが、それさえも遠く及ばない。そう感じさせられた見学会でした。

岩田 信一

○まとめ

6月は京都市内の『吉田家』と『紫織庵』を見学し、今月は平成の京町家モデル住宅展示場『KYOMO(きょうも)』を見学しました。この双方を比較することで、伝統的な京町家と平成の京町家双方への理解が深まりました。

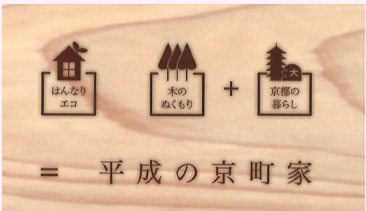
所員間のディスカッションでは、それぞれの利点・欠点が挙げられました。しかし、異なる考えのもとにつくられているため、比較することは難しいように感じました。

技術・構造・機能が合わさることで京町家の良さが表れるため、自然材料と京町家の機能を融合した快適な環境づくりが求められています。

伝統的な京町家に魅力を感じる人は多く、伝統的な京町家の知恵と現代的な技術の融合を図るだけではなく、今後は、現代の技術を伝統的な京町家に取り入れ、建物や技術を継承していくための仕組みづくりも必要となってくるのではないのでしょうか。



＊平成の京町家普及センター＊
伝統構法2階建て
京都産木材で建設されています



金物に頼らない伝統的な木組み



風の通り道となる和室



木材を使用したキッチン



内部の坪庭